

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆめっこくらぶ		
○保護者評価実施期間	R6年 4月 1日		～ R7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	R6年 4月 1日		～ R7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の記録や支援内容について正しく処理ができていて、木職員間での共有もできている。	年度途中から支援ソフトを導入。管理や入力など統一感をもって対応する事ができている。	支援ソフトの利用は継続して行う。 その他、会議等を通して利用者に対する課題等の共有も徹底して行っていく。
2	学校との情報共有ができていて、必要に応じて連絡調整を行うことができています。	学校送迎時にご利用者さんの情報収集を行い、必要に応じて学校及び家庭とも連携を図っている。	個別のケースに対して本人並びにご家族の支援も含め細かなところまで配慮する。
3	長きにわたりこの事業に携わってきた経験と知識が上手く保護者、利用者に伝わってある程度適切な支援が行えている。	個別のケースに目を向けて、成長とともに新たに出る課題や家庭の困り感などに気づき、対応できるように形に囚われず柔軟に対応している。	常勤職員、パート職員共に感じたことを共有しながら適時話し合いをする事で新たな取り組みができるように体制を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の配置数 現状の利用者数及び送迎業務に関して職員が充足しているとは考えにくく、補充が必要。	随時、募集は行っているものの採用に繋がるまでに至らないケースが多い。	支援員及び運転手を含めて今後も継続して募集をかけていく。 法人との協議しながら新たな採用方法の検討も行っていく。
2	活動プログラムが固定化されがちになっている。	学校から戻ってくる時間や職員の配置から平日は偏った活動になりがち。	長期休暇や祝日なども利用しながら活動に変化をつけていく また外出企画なども企画立案を検討する。
3	緊急時対応マニュアル等、各種マニュアルについて周知が徹底できていない部分がある。	作成及び職員間での共有はできている部分はあるが、保護者に向けての周知が徹底できていない部分がある。	昨今の災害状況等を考慮して改めてマニュアルの見直しを行い、面談等を通して改めて保護者へも通知する機会を作る。